

茨城県新治村

田宮梶の宮遺跡

— 発掘調査報告書 —

平成13年3月

田宮梶の宮遺跡発掘調査会

序

自然に恵まれた新治村は、遺跡の数では県内でも随一であり、「自然と歴史の村新治」に高い誇りと郷土新治村のすばらしさを感じるわけであります。

時代の新しい流れは、また新しい歴史を生みだします。そして、残された遺跡や遺物に新しい光を与えることによって今までと異なった価値と意義も生まれます。

この度の田宮梶の宮遺跡の発掘調査は、「土浦土地改良事務所によるふるさと農道整備事業」に伴い事前に造成地内遺跡の発掘調査を行い、記録保存を図ることになりました。

土浦土地改良事務所の委託を受けて、田宮梶の宮遺跡発掘調査会を発足し、平成12年10月28日より平成13年3月20日迄を調査期間として、発掘調査が行われました。

調査結果として検出された遺構として方形周溝墓3基（古墳時代前期から中期頃）、住居跡13軒（弥生時代後期3軒、古墳時代前期2軒、奈良・平安時代8軒）、陥し穴9基（縄文時代前期）、土坑18基、溝4条、道跡1条が明らかになりました。縄文時代から奈良・平安時代にわたっての複合遺跡であり各時代の人々の生活を想像するとき、さまざまな古代へのロマンが広がって参ります。

この調査に当られた山武考古学研究所の方々始め、関係の皆様方に心から感謝申し上げます。また先人達の遺された姿を後世に語り、伝える貴重な資料として残される事は意義深いものがあり、事業者である土浦土地改良事務所に心から感謝申し上げ発刊のごあいさつといたします。

平成13年3月

田宮梶の宮遺跡発掘調査会長
新治村教育委員会教育長 林 久 義

例　　言

1. 本書は、茨城県新治郡新治村大字田宮地内に所在する田宮櫛の宮遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、ふるさと農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
3. 調査は、田宮櫛の宮遺跡発掘調査会の依頼を受けて、山武考古学研究所が行なった。
4. 遺跡の所在地・面積及び調査期間・調査担当者は下記の通りである。

遺跡名	田宮櫛の宮遺跡
所在地	茨城県新治郡新治村大字田宮字蘿臺921外
調査面積	1,520m ²
調査担当	高野浩之（山武考古学研究所調査研究員） 土生朗治（山武考古学研究所調査研究員）
5. 整理調査は、執筆を高野が行い、土生が補佐した。調査時は片岡美和子・藤井陽子・末廣弘子の協力を得た。
6. 本遺跡の出土遺物、写真、図版等の資料は、新治村教育委員会が保管する。
7. 発掘調査及び整理調査において、下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。（順不同・敬称略）

土浦土地改良事務所 新治村教育委員会 茨城県教育庁文化課 (財)茨城県教育財團 小松崎猛彦
海老澤稔 大間 武 小澤重雄 瓦吹 堅 咸谷 修 赤井博之 伊藤三雄 稲田健一 矢口修一
大竹直司 (有)新成田総合社 (株)東日本重機 開成測量(株) JT高橋
8. 発掘調査参加者は下記の通りである。（順不同）

飯村 清 町田泰秀 柳田英子 松戸和彦 岡田義雄 岡本武雄 山本喜美子 栗原みよ 石田春江
宮本みつ 宮本行祥 岡田みえ子 飯村寅雄 飯村ゆわ 飯村綾子 中山 真 山本清寿 野口全弘
伊藤久江 関口雅子 遠藤かづ江 二川一義 野口雅子 田上源吾

凡　　例

1. 位置図、地形図及び遺構実測図の方位は全て座標北を示す。
2. 遺物写真的縮尺は、原則的に挿図の縮尺と一致している。
3. 遺物番号は通しで、台帳番号と一致している。
4. 挿図中の遺物には口径、器高、底径値（ただし（ ）は推定値）をcm単位で記入した。
5. 遺物観察表、遺物注記で使用した遺構の略号は以下の通りである。

堅穴住居跡…S I 土坑…S K 溝…S D 方形周溝墓…方周
6. 図の中で使用したスクリーントーンは以下の通りである。



炉・焼土・赤彩



土器の黒色處理

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
I 調査に至る経緯	1
1 調査経緯	1
2 調査経過	1
3 調査方法	1
II 基本堆積土層	2
III 遺跡の位置と環境	3
IV 調査の成果	7
1 遺跡の概要	7
2 遺構の概要	7
縄文時代	7
弥生時代	7
古墳時代	7
奈良時代	8
平安時代	8
中世	8
3 出土遺物	9
4 まとめ	10

挿 図 目 次

第1図 グリッド設定図	2
第2図 基本堆積土層図	2
第3図 田宮梶の宮遺跡周辺の遺跡	3
第4図 田宮梶の宮地区採集遺物	4
第5図 田宮梶の宮遺跡の立地環境	4
第6図 田宮梶の宮遺跡遺構全体図	5
第7図 弥生時代の遺構	7
第8図 古墳時代の遺構	8
第9図 奈良時代以降の遺構	9
第10図 田宮窯跡産の可能性のある須恵器	10
第11図 茨城県内の大型方形周溝墓(方形墳)	10
第12図 陥し穴状遺構	11
第13図 弥生時代の堅穴住居跡	12
第14図 弥生時代・古墳時代の堅穴住居跡	13
第15図 1・3号方形周溝墓・2号溝	14
第16図 2号方形周溝墓	15
第17図 奈良・平安時代の堅穴住居跡	16
第18図 奈良・平安時代の堅穴住居跡、中世の道・溝	17
第19図 土坑	18
第20図 出土遺物(1)	20
第21図 出土遺物(2)	21
第22図 出土遺物(3)	22
第23図 出土遺物(4)	23
第24図 出土遺物(5)	24

表 目 次

表1 田宮梶の宮遺跡住居跡一覧表	18
表2 田宮梶の宮遺跡土坑一覧表	19
表3 田宮梶の宮遺跡遺物観察表(1)	24
表4 田宮梶の宮遺跡遺物観察表(2)	25
表5 田宮梶の宮遺跡遺物観察表(3)	26

写真図版目次

図版1 調査区全景	
図版2 2号方形周溝墓	
図版3 1号・3号方形周溝墓 1号・3号・5号~7号・14号住居跡	
図版4 4号・9号~13号住居跡 3号・4号・7号・19号土坑	
図版5 出土遺物	
図版6 出土遺物	

I 調査に至る経過

1 調査経緯

平成6年3月9日、茨城県土浦土地改良事務所の行なう、ふるさと農道緊急整備事業新治地区工事の施工に伴い、当該工事区域内に埋蔵文化財包蔵地の有無について照会があり、平成6年3月28日、新治村教育委員会は工事区域内に周知の遺跡が確認される旨の回答をした。茨城県教育委員会と茨城県土浦土地改良事務所及び新治村教育委員会は埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行ない、平成7年3月9日・10日両日に事前調査を実施した。さらにこの事前調査を踏まえ、平成9年9月10日に現地調査・試掘を行なった結果、9か所の遺跡が確認された。工事区域は田宮櫛の宮遺跡の一部であり、本格的な調査が必要であると判断され、新治村教育委員会は試掘の調査結果について茨城県土浦土地改良事務所へ通知した。茨城県教育委員会・茨城県土浦土地改良事務所及び新治村教育委員会は、文化財保護の立場から埋蔵文化財の取り扱いについて協議を重ねた結果、現状保存は困難と判断し、記録保存の措置を講ずることとなった。その後さらに協議を行い、茨城県土浦土地改良事務所は、平成12年度に発掘調査開発の予算を計上するとともに、新治村教育委員会は「田宮櫛の宮遺跡発掘調査会」を発足させ、両者間において埋蔵文化財発掘調査に関する委託契約を締結し、平成12年10月28日から発掘調査を実施することとなった。

2 調査経過

10月下旬 28日より調査準備を開始した。調査区内及び残七置場の下草刈りを行なった。

11月上旬 1日・2日は調査準備を継続した。プレハブ・トイレ等施設と発掘器材を搬入した。

3日より表土除去を開始した。表土除去作業は残土処理の関係から、調査区の西側半分を南側から北方向へ進めていった。6日より調査補助員が着任し、休憩用施設を設営した後、遺構確認作業を開始した。遺構確認作業は既に表土除去が終了していた調査区南側より行なった。9日に表土除去を完了し、10日には遺構確認を終了した。この段階で竪穴住居跡12軒、溝状遺構2条、方形周溝状遺構2基を確認した。確認状況の写真撮影を行ない、遺構の調査を開始した。掘り下げは北側の遺構より行なった。

11月中旬 遺構の調査を継続した。北側の溝を調査し、方形周溝状の遺構であることが判明した。住居跡は1・3・5・7・9・13号の各住居跡を調査し、5・7号住居跡は弥生時代の住居跡であることが判明した。5号住居跡からは良好な資料を得ることができた。溝は1号溝の掘り下げを行ない、同時に、溝に近接した土坑の掘り下げを行なった。

11月下旬 遺構の調査を継続した。住居跡は2・4・5・6・8号の各住居跡を調査した。並行して2号方形周溝状遺構と2・3号溝の掘り下げを開始した。

12月上旬 遺構の調査を継続した。前半は4・6・10~12号住居跡の精査を中心に行ない、写真撮影及び完掘状況の実測を行なった。後半は2・3号方形周溝状遺構の掘り下げが中心となり、その結果、方形周溝墓であることが判明した。特に2号は非常に大型であった。また周溝下より陥し穴状遺構が確認され、調査区の北西方向へ進続していた。合計9基の掘り下げを行なった。

12月中旬 11・12日の両日、遺構全体図作成を行なった。また12日から13日にかけて、各遺構の精査を行ない、空撮のための準備を行なった。13日午後より空撮を実施した。並行して施設の撤去及び発掘器材の片付けを行なって、発掘調査の全工程を完了した。19日、調査会主催の現地説明会を行なった。

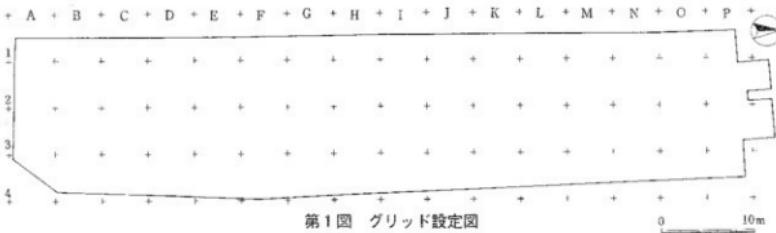
3 調査方法

調査の範囲は、新治村教育委員会によって実施された確認調査の成果に基づき、調査面積を1,520m²として本調査を実施した。調査区内には、公共座標を用いて5m×5mの方眼グリッドを設定した。グリッドの名前は南西角の交点を基準とし、アルファベットと算用数字を用いて、南から北へA・B・C……P、西から東へ0・1・2……4と呼称した(第1図参照)。水準点は調査区の北側(標高29.8m)、南側(標高29.6m)の2か所に設定した。

表土はパワーショベルを用いて除去し、遺構の確認状況を写真撮影した後、人力で各遺構の掘り下げを行なった。検出された各遺構の調査は遺構の規模・内容に応じて半剖または4分割した上層観察用ベルトを設定して慎重に掘り下げを行なった。土層の観察・記録は土色帖を用いた。出土遺物は原則として出土地点、高さを記入して個別に取り上げを行なった。

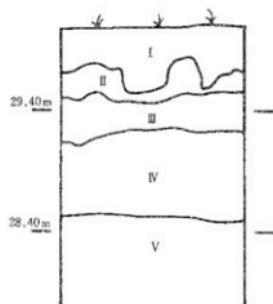
遺構全体図は1/200縮尺で行なった。各遺構の平面図及び断面図、土層断面図は、規模・内容に応じて簡易造り方、平板を使用し、1/20、1/40縮尺で実施した。特に竪穴住居跡で検出された窯、炉は、簡易造り方を用い、1/10縮尺で記録した。各遺構の平面図は、遺物出土状況図、完掘図を作成した。

写真は、35mm判白黒、カラー・リバーサル、6×7判白黒を用いて、調査前現況から土層状況、遺物出土状況、完掘状況まで調査の進捗状況に合わせて適宜行った。調査区の全景はラジコンヘリコプターによる空撮を実施した。



II 基本堆積土層

基本堆積土層は、調査区中央部のI 1グリッド内にテストピットを設定して観察を行なった。I層は表土層で層厚25~33cmである。しまりのない暗褐色で耕作による攪乱が著しく、籠竹等の根が非常に多い。土器片が少量含まれている。II層は褐色を呈したソフトローム層で層厚19~29cmである。ところどころ表土からの小さい掘り込みが見られる。III層は明褐色のソフトローム層で層厚22~36cmである。小砂利が微量に含まれてしまがある。IV層は褐色のハードローム層で層厚56~72cmである。V層より色調はやや明るめである。小砂利を少量と白色バミスを微量含んでいる。V層は明褐色のハードローム層で層厚50cm以上である。色調はIII層に類似するが粘性・しまりがIII層のそれよりもはるかに強い。



第2図 基本堆積土層図 1 / 40

III 遺跡の位置と環境

田宮櫛の宮遺跡の所在する新治村は筑波山の南東約10km、霞ヶ浦の北西約8kmに位置し、北に八郷町、南に土浦市、東に千代田町、西につくば市の各市町に隣接している。恋瀬川の支流天の川によって画された村域北部は筑波山塊が連なり、中央部は新治台地が東西に広がっている。南部は桜川が流れる広大な沖積低地になっている。桜川低地と台地との境は急崖となっており比高差約20mを測る。

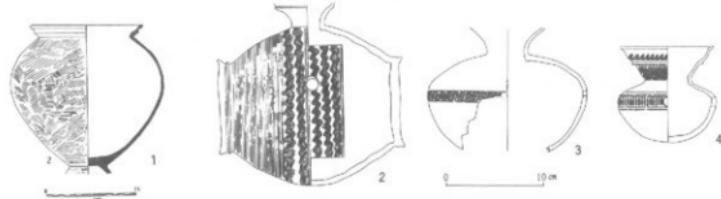
本遺跡は新治村役場の西北西約1km、桜川の左岸に位置し、低地に接した標高約29mの台地の縁辺部に立地する。周辺の地形は小谷が複雑に入り組み、遺跡南側は現在櫛の宮池となっている東に延びる谷津が形成され、西側から北側も小高村に向かって谷津が入り込んでいる。

新治村は変化に富んだ地形から各時代の数多くの遺跡が遺存する。縄文時代の遺跡は、縄文時代早期の小高天神遺跡、前期から中期の大畑新田遺跡、中期から後期の大畑本田貝塚等がみられる。

弥生時代の遺跡は桜川左岸では、藤沢地区や小高地区で弥生土器が表採されている。天の川の中流域方面には上稻吉西原遺跡を始めとする弥生時代後期後半期の大規模集落遺跡の原田遺跡群がある。新治村内では本郷原山遺跡で弥生時代後期後半期の堅穴住居跡7軒の調査が行われている。

古墳時代の遺跡では、集落遺跡の数は多いと思われるが調査例は少なく、包蔵地からの遺物の出土例が知られている。田宮櫛の宮遺跡からは、古墳時代前期のS字型（第4図-1）や5・6世紀の土師器壺、坏、古式須恵器が出土している。古式須恵器は県内では類例の少ない椎形壺と大形壺、滑石製模造品と共に第5図A地点から出土している。田宮久保出土の小形壺と共に陶邑産のTK208段階頃の須恵器である。





第4図 田宮櫛の宮地区探集遺物

集落遺跡に対して方形周溝墓や古墳群の調査例はいくつかあり、みずからが出土して有名になった武者塚古墳、上坂田貝塚の方形周溝墓、田宮古墳群等の調査が行なわれている。上坂田貝塚からは一辺13mの規模の古墳時代前期の方形周溝墓が確認され、小形の器台と共に底部穿孔の壺形土器が出土している。

古墳群は桜川沿岸低地を基盤とする高崎山古墳群、小高古墳群、田宮古墳群、田土部古墳群、上坂田古墳群、下坂田古墳群、藤沢東町古墳群と天の川低地を基盤とする沢辺古墳群、原山古墳群、大志戸古墳群に大別され、大半が後期の古墳群である。高崎山古墳は、田宮櫛の宮遺跡からは西側に延びる細長い台地上に立地する古墳群で、東支群と西支群からなり東支群は前方後円墳1基と彩色人物埴輪の出土した円墳等7基から成る。西支群は平成9年の調査で新しく確認された前方後円墳1基と円墳2基からなる古墳群で横穴式石室から6世紀第2四半世紀頃の須恵器とともに馬具・武具・玉類が出土している。田宮古墳群の調査では、後期～終末期の前方後円墳2基、円墳6基が確認されている。

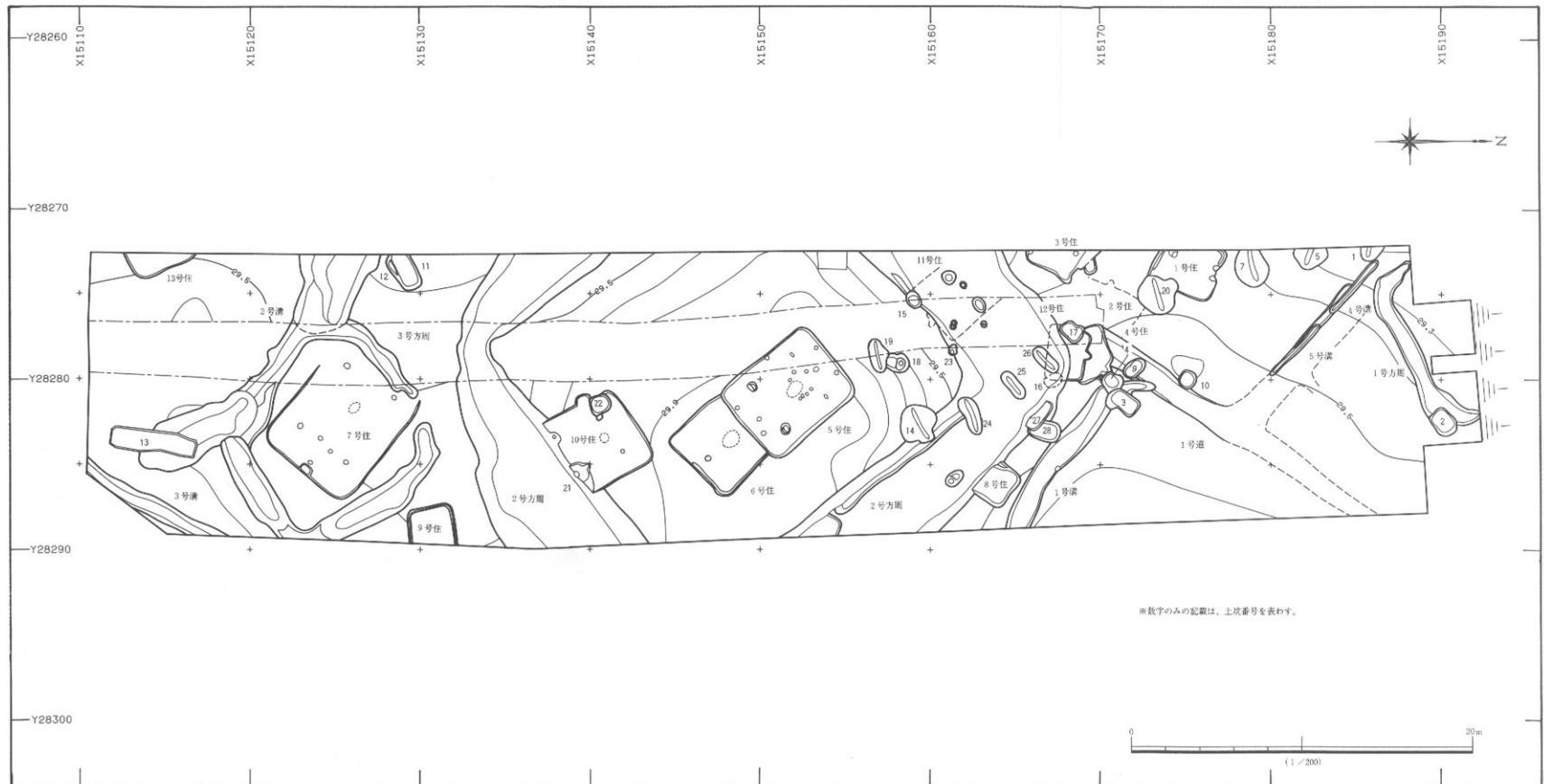
奈良・平安時代の遺跡では新治窯跡群が知られている。天の川中流の土浦市栗山窯を最古としその後、永井寄居窯、東城寺窯、小野窯と展開する窯跡群で、東城寺周辺を中心とした地区とともに桜川右岸の田宮窯跡、小高窯跡、小高村内窯跡を合わせて新治窯群として認識される大窯跡群である。

中世の遺跡では、東城寺の経塚群、藤沢城跡等がある。田宮櫛の宮遺跡の東に隣接する榎木平（第5図B地点）からは堅穴遺構から中世前半期の大量の埋納銭が出土している。

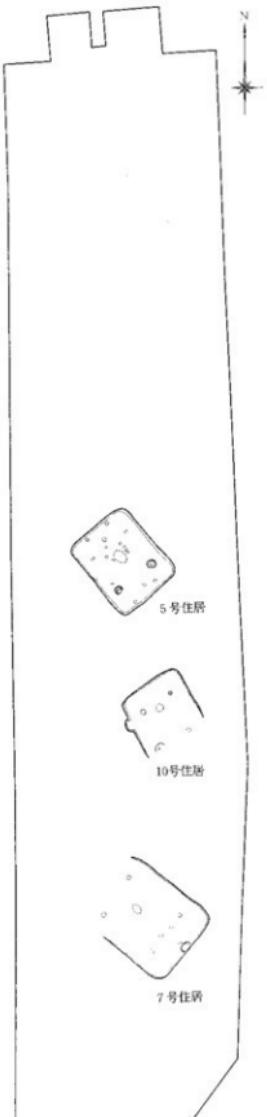


第5図 田宮櫛の宮遺跡の立地環境

1/5,000



第6図 田宮櫛の宮遺跡遺構全体図



第7図 弥生時代の遺構

IV 調査の成果

1 遺跡の概要

田宮桜の宮遺跡の調査区からは縄文時代と思われる陥し穴状遺構8基、弥生時代竪穴住居跡3軒、古墳時代前期の竪穴住居跡2軒、方形周溝墓3基、奈良・平安時代の竪穴住居跡7軒、中世の道路状遺構1条、溝状遺構3条、時期不明の土坑20基が検出された。

2 遺構の概要

縄文時代（第12図）

縄文時代と思われる陥し穴は調査区の北部に北西から南西方に向かって配列しており、全部で9基が確認された。いづれも長軸を配列方向と直交させてほぼ直線的に列をなしている。

弥生時代（第7図）

弥生時代の竪穴住居跡3軒は調査区の中央部から南部にかけてまとまって確認された。竪穴住居跡の平面形は主軸方向に長い長方形で、4本の主柱穴のはかに短辺側の壁際には補助柱穴が2本づつあるもの（5号住居跡）、出入り口ピットとそれに伴う浅いピットを持つもの（7号住居跡）がある。炉の位置にも違いが見られ、5・7号住居跡は床面中央部僅かに奥壁寄り、10号住居跡はさらに奥壁寄りである。出土遺物は、壺を主体にして高杯、鉢類等が出土している。5・10号住居跡の出土遺物は海老沢編年のⅡ期、7号住居跡はⅢ期で、弥生時代後期の前葉から中葉にかけての時期の集落跡である。

古墳時代（第8図）

古墳時代の竪穴住居跡は、弥生時代の竪穴住居跡と同じように調査区の中央部と南部の台地縁辺寄りの地点から確認された。2軒の竪穴住居跡のうち平面形の明らかな6号住居跡は主軸と直交方向に長い長方形で、主柱穴を持たず住居中央部やや奥に炉が確認されている。出土遺物は、小形器台、高杯、台坪壺片等である。

古墳時代の方形周溝墓は調査区の全体に広がっている。弥生時代後期前葉から古墳時代前期中頃まで集落遺跡であったものが、その後方形周溝墓群からなる墓域へと変化したようである。方形周溝墓は3基が確認されている。規模は1号方形周溝墓と3号方形周溝墓が一辺約10m弱である。2号墓が約24×22mで溝幅約5~6mと県内では最大の規模となる。各周溝墓の深さは1号墓が30~56cm、2号墓が50~140cm、3号墓が30



第8図 古墳時代の遺構

~40cm、2号墓は南西部のコーナー部が最も浅くブリッジ状になっている。

2号墓は溝の内側地山を傾斜約70°に削り方台部を造っている。方台部傾斜面はていねいに整形されており斜面直下の周溝底面は直線的な細い溝状に掘り込まれている。それに対して溝の外側斜面は掘り込みの深さが場所によって一定せず荒い仕上がりになっている。出土遺物は覆土下～中層から弥生時代後期後半から古墳時代前期・中期・後期、そして覆土上層の腐植土層からは奈良時代の遺物が出土している。古墳時代前期中頃の6号住居跡と重なっており、おそらく占墳時代前期後半の遺構と考えられる。

奈良時代（第9図）

奈良時代の8世紀中頃になると再び、調査区内に堅穴住居跡からなる集落が営まれ始める。この時期に再び集落が出現するのは調査地区的南西に隣接する田宮の須恵器窯跡との関係が想定される。調査地区内では堅穴住居跡は1軒（1号住居跡）だけが確認されている。2号方形周溝墓の覆土中にも奈良時代の須恵器が廃棄されており、調査区外にもこの時期の集落が広がっていたものと思われる。出土遺物は須恵器の壺・甕・土師器の甕等で、1号住居跡のカマドには構築材として両袖部に土師器甕が逆位状態で埋め込まれている。

平安時代（第9図）

平安時代の9世紀後半以降になると再び調査区全体に小形の住居が営まれ10世紀後半まで続いている。この時期の堅穴住居跡は全体に小形で主柱穴をもたず、平面形は方形基溝で東側コーナー部にカマドを持つもの（3号住居跡）と長方形で東側壁面にカマドを持つと推測されるもの（9号住居跡）、長方形で北西壁面にカマドを持つもの（2・12号住居跡）があり、おそらくコーナーカマドのものから東カマドのものへ、さらに北西壁側にカマドを持つものへと変化していると考えられる。出土遺物は土師器の高台付碗、小皿、甕等が出土している。

中世（第9図）

中世前半期になると調査地区の北部に道・溝状遺構が見られる。北部の1号道は北東から南西へ直線的に延びて、途中で東西方向に直交して分岐している。底面が平坦で硬化面を持つ道状遺構であり、南西部では溝形になり北東部では削平されて平坦な硬化面として続いている。出土遺物は方形周溝墓と重なる部分から上師賀土器の小皿が出土している。調査区の南端部の



第9図 奈良時代以降の遺構

3号溝からも常滑の鉢が出土している。常滑片口鉢は中世前半期の遺物である。3号溝は現有道路添いに掘り込まれており、近代の溝の可能性がある。

3 出土遺物（第20~24図）

田宮梶の宮遺跡から出土した遺物は縄文時代早期から中世前半の時期までの土器や陶器、土製品や鉄製品等である。縄文時代早期の土器は、沈線文系土器（田戸下唇）と条痕文系土器で極少量が弥生時代の竪穴住居跡の覆土中に混入して出土している。縄文時代早期に伴うものかどうかはっきりしないが貝岩製の局部磨製石斧が方形周溝墓覆土中から出土している。弥生時代の遺物は、竪穴住居跡に伴う後期前葉～中葉の時期の土器で弥生時代後期の海老沢編年のⅡ期からⅢ期にかけての時期のものである。5号住居跡からは一段の複合口縁で格子目文の施された壺（8）がP10近くの床面から出土している。この壺は頸部の文様帶の無文部に赤彩が施されている。20の紡錘車はP4際の床面から出土しており同じように紡錘車にも僅かに赤彩痕跡が見られる。この時期の在地の赤彩土器は珍しく他地域からの影響と考えられる。7号住居跡出土の注ぎ口を持った壺（22）は、頸部上半に棒状の工具による刺突が、下半には結節文が施されている。同じく小形の壺（26）には多条櫛歯による連続山形文が施されており、この時期の栃木県方面からの影響とされるものである。5・10号住居跡の遺物は海老沢編年後Ⅱ期、7号住居跡の遺物は後Ⅲ期のものである。その他に方形周溝墓覆土中から、弥生時代後期後半の上稻吉式土器片も出土している。また在地の製品以外に2号方形周溝墓覆土中からバレス壺の口縁部（37）と思われる、刻み目を入れた棒状付文の土器小片が出土している。

古墳時代前期の遺物は、前期中葉～後葉にかけての土師器と鉄製品で、竪穴住居跡から出土しているものと方形周溝墓覆土中から出土しているものがある。竪穴住居跡の出土遺物は6号住居跡の炉の北側床面から出土した小形器台（38）と13号住居跡床面から出土した高杯（39）であるが、どちらも前期中頃のものと思われる。方形周溝墓の遺物は、2号方形周溝墓の覆土中から頸部に突帯を巡らした土師器の壺（48）や口頸部を内巻させる中形壺（49）、土器以外では鉄鎌が2号方形周溝墓の覆土中から出土している。鉄鎌（53）は刃部の上半部の破損した長鋒柳葉式鉄鎌で残存長8.0cm、刃部幅2.1cm前後、重量14.0gである。いづれも竪穴住居跡の遺物の時期に近い前期中頃のも

のと思われる。前期後半の遺物ではほぼ完形で出土した小形埴（51）やS字甕口縁部片（50）がある。S字甕は口縁端部の形状から赤塚分類のC類の新段階頃のものと思われ、西宮一男氏によって紹介された田宮梶の宮出土S字甕よりはやや新しい時期のものと思われる。その他に混入と思われる弥生時代後期後半の甕体部片（41）、古墳時代中期～後期（54）の土師器片と少量の須恵器、6世紀後半の円筒埴輪小片が見られる。

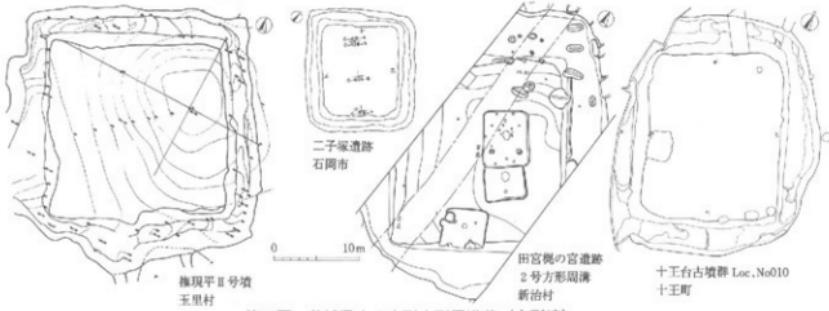
3号方形周溝墓の覆土中からは被熱痕のある棒状の土製品（40）が出土している。長辺の一面に被熱痕が細長く残り、竪穴住居跡の炉に埋め込まれて炉石のように使われる土製品かもしれない。

奈良・平安時代の遺物は、各住居跡出土の土師器・須恵器で8世紀後半から10世紀前半の時期のものである。1号住居跡出土の須恵器は雲母微粒を多量に含んだ新治産須恵器で新治赤井編年東城寺段階（8世紀第4四半世紀頃）に位置づけられる。2号方形周溝墓覆土出土の須恵器は新治産で、東城寺寄居前A段階に位置づけられる。第10図の須恵器は2号方形周溝墓覆土中から出土している。これらは使用痕跡がみられず焼き歪みや融解した鉄分粒の吹き出しの生々しい、窯出直後の処分品のような須恵器である。胎土は鉄分粒が目立ち、雲母を少量含んでいる。坏は底部を四方向にヘラ削り、さらに底部周縁を5～8mm幅でヘラ削りしている。東城寺寄居前A段階（8世紀中葉）の中の古いものに類似している。

中世の遺物では常滑鉢（74）が、中野編年7期（14世紀前半）の片口鉢と思われる。かわらけ（75）は、底部に指頭痕のある手捏で、コースター状の形態である。

4 まとめ

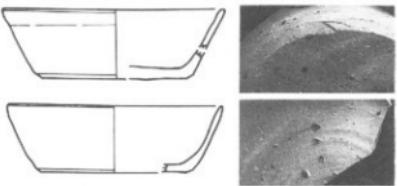
本跡は弥生時代から古墳時代前期にかけての集落遺跡であり、古墳時代前期の後半には方形周溝墓からなる墓域になっていたようである。さらに奈良時代には付近で須恵器の生産が行われ、再び平安時代にかけて集落が営まれていたことも確認された。古墳時代前期の方形周溝墓群の中で一辺20mを越える規模の大きなものが見つかったことも特筆されるべきことである。



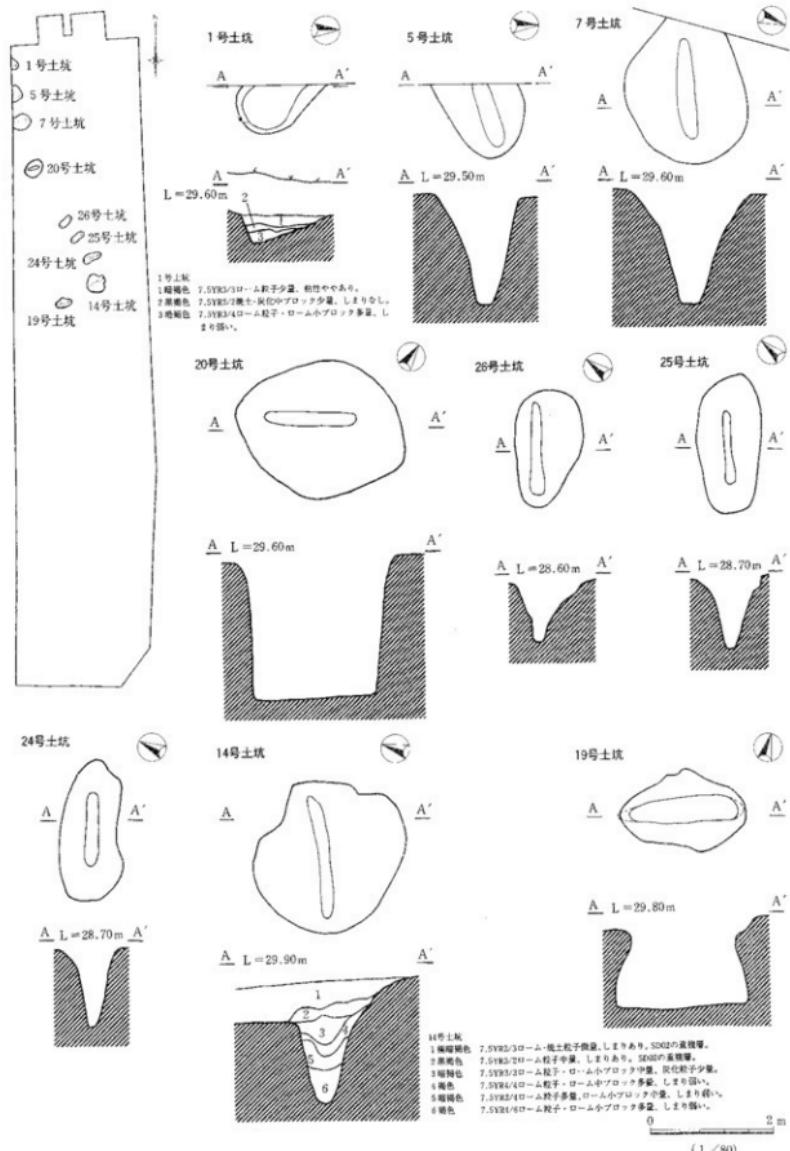
第11図 茨城県内の大型方形周溝墓（方形墳）

参考文献

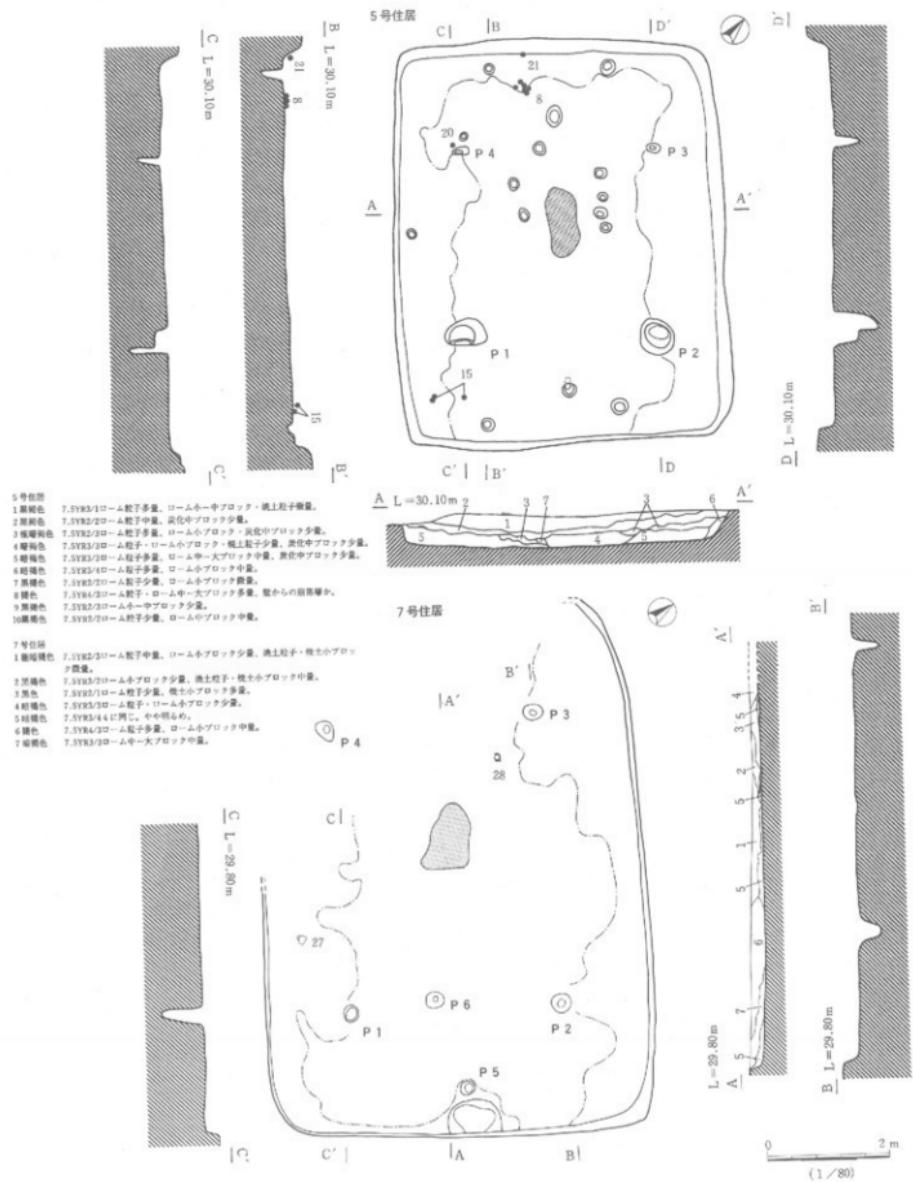
- 1968年 西宮一男「新治郡新治村梶の宮の土師器」『茨城県の土師器集成』第2集 茨城考古学会
- 1982年 黒沢彰哉「新治村田宮梶の宮遺跡出土の須恵器」『倭良枝考古』第4号
- 1986年 『重要遺跡調査報告書告報Ⅲ』昭和61年3月 茨城県教育委員会
- 1986年 『武者冢古墳』新治村教育委員会
- 1996年 内山俊身「茨城県新治村田宮出土の中井一括埋納鉢」『備蓄鉢とその出土状態』第3回出土鉢研究会発表要旨
- 2000年 海老沢稔「茨城県における弥生後期の土器編年」『倭良枝考古』第22号



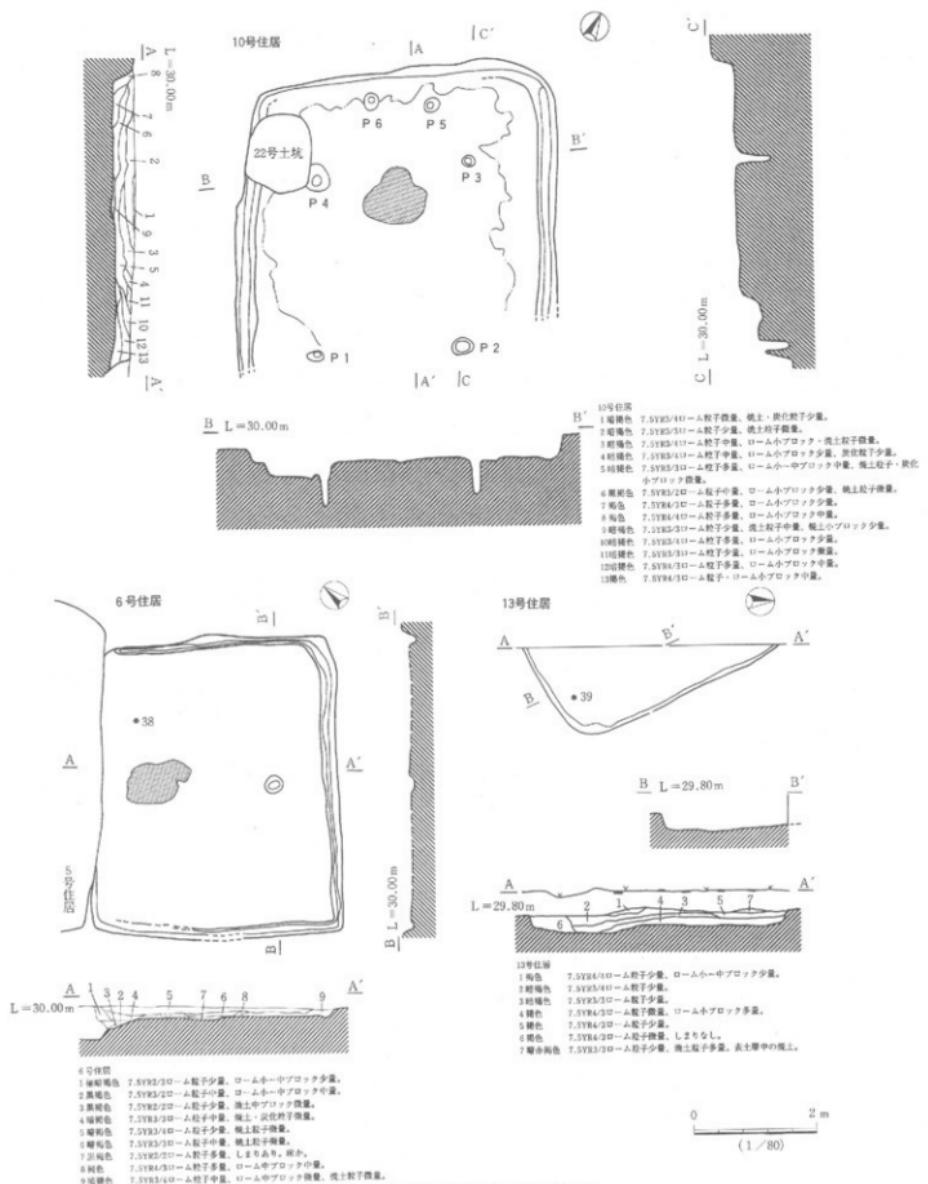
第10図 田宮塗跡産の可能性のある須恵器



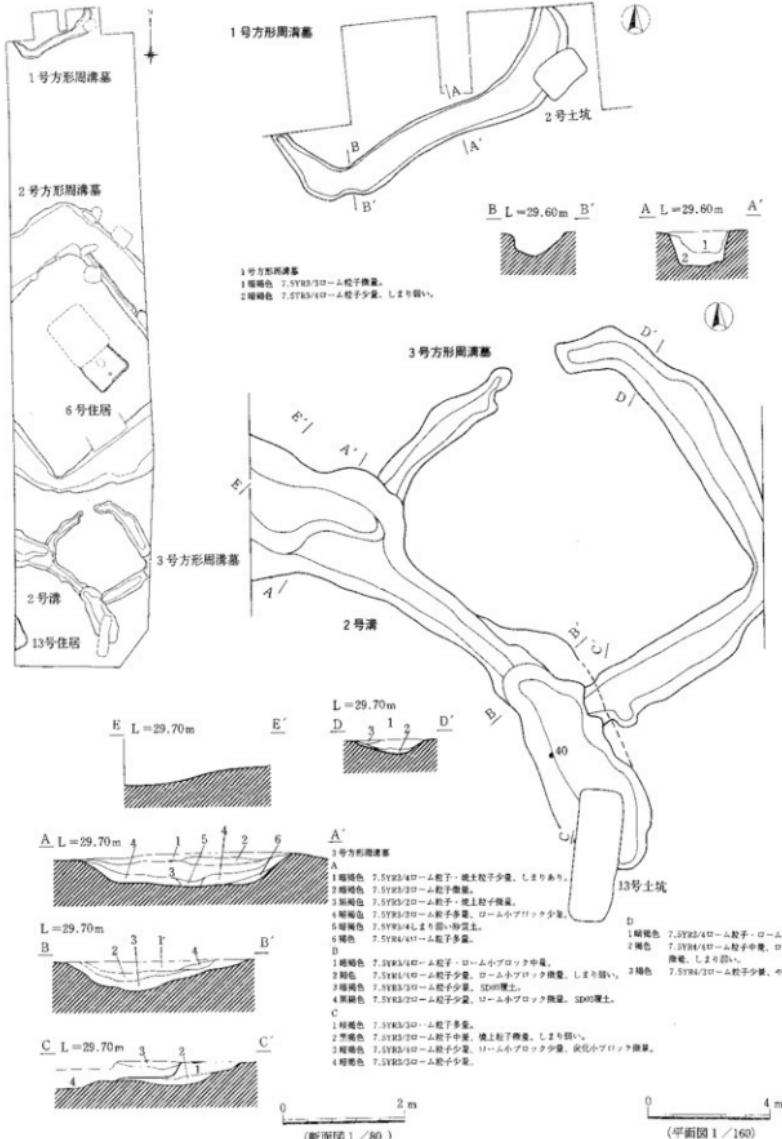
第12図 陥し穴



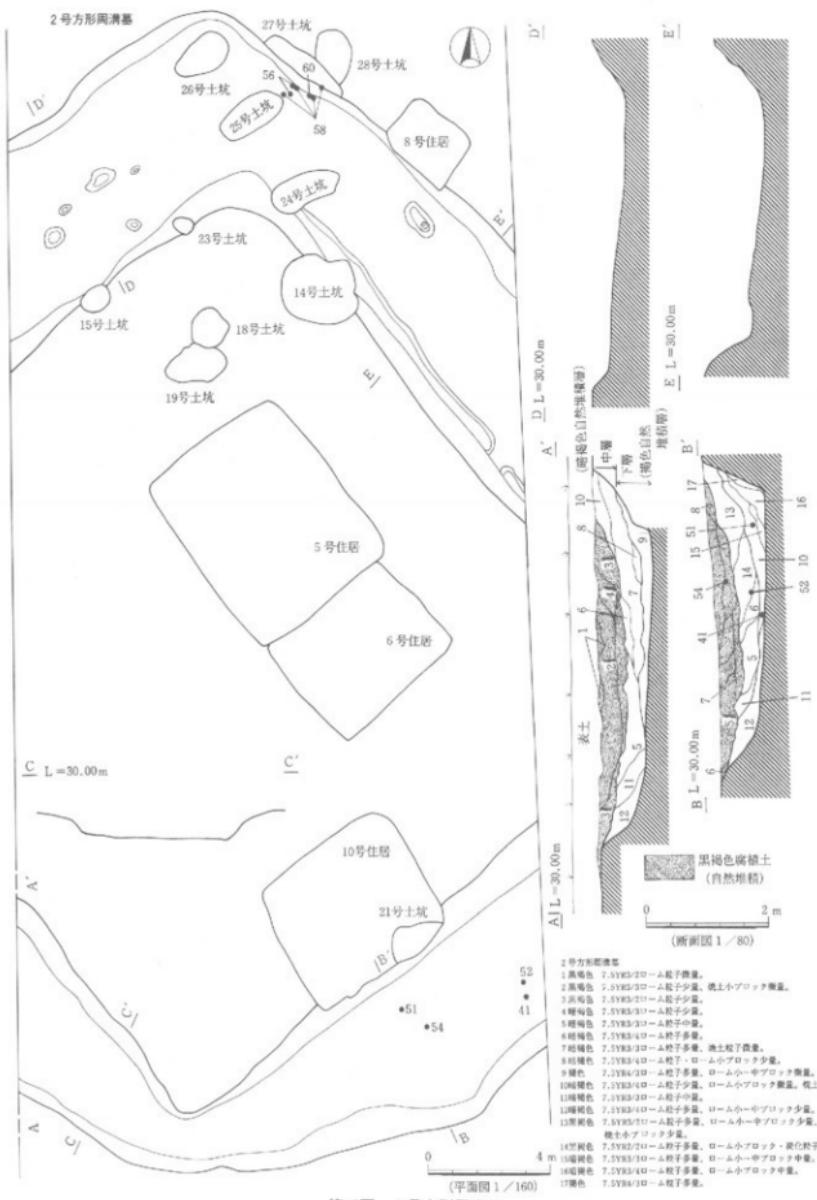
第13図 弓生時代の竪穴住居跡



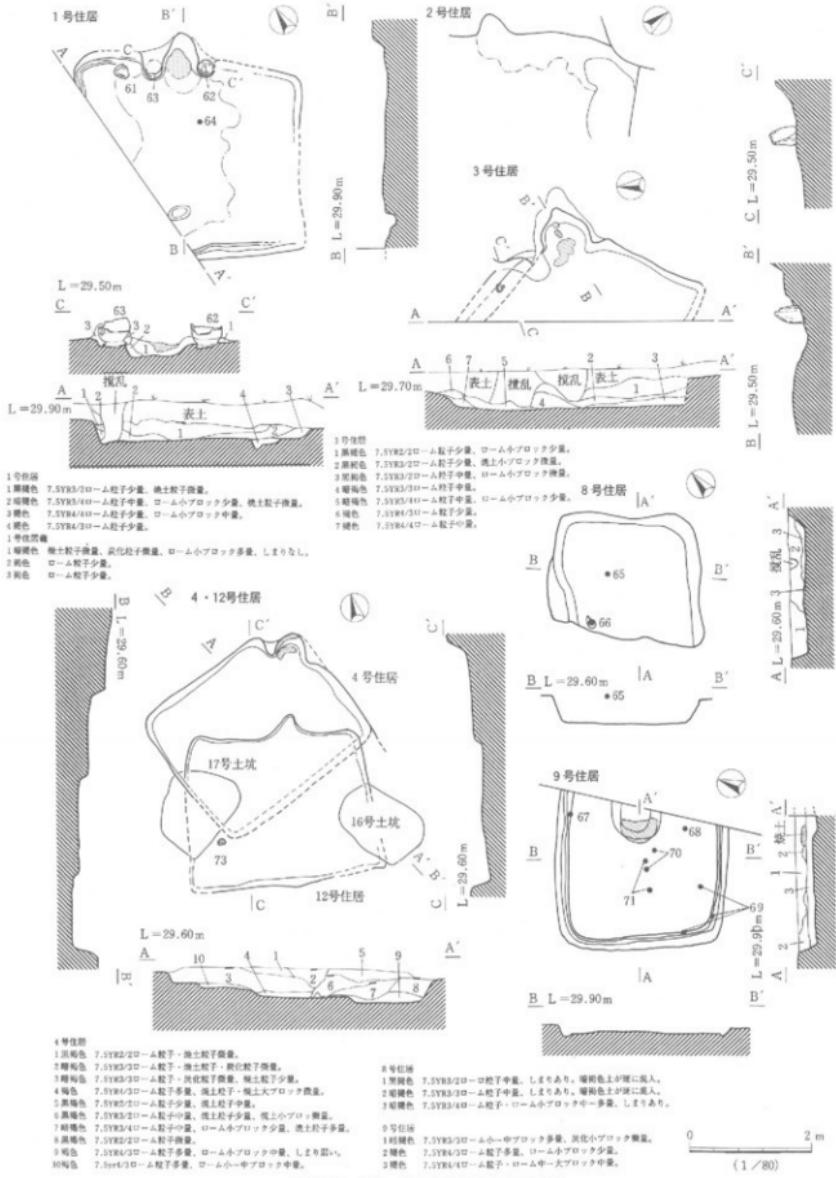
第14図 弥生時代・古墳時代の竪穴住居跡



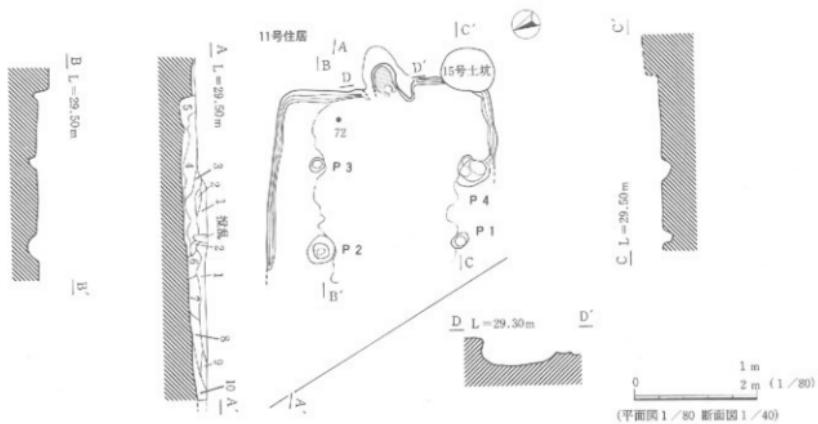
第15図 1・3号方形周溝墓、2号溝



第16図 2号方形周溝墓

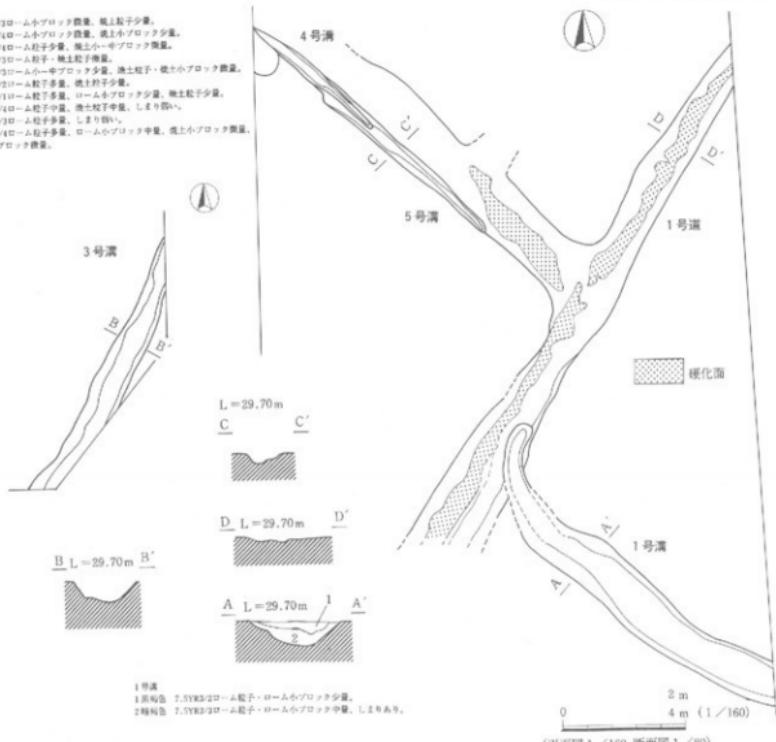


第17図 奈良・平安時代の竪穴住居跡

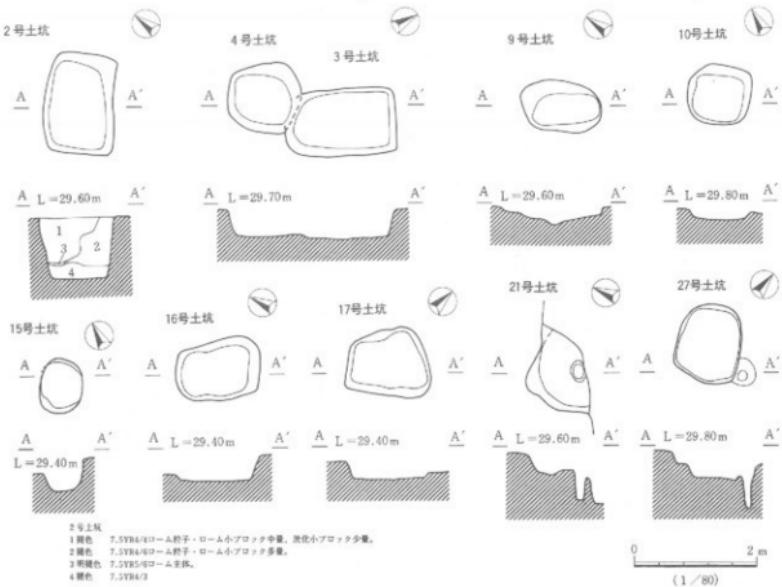


1号住居

- 1 磯継石 7.5YR8/2ローム小ブロック箇量、粘土粒子少量。
- 2 磯継石 7.5YR8/2ローム小ブロック箇量、粘土小ブロック箇量。
- 3 黒色 7.5YR8/10-11人柱子箇量、粘土ヘーサブロック箇量。
- 4 黒色 7.5YR8/10-11人柱子箇量、粘土粒子箇量。
- 5 黄色 7.5YR8/10-11人柱子箇量、粘土粒子箇量。
- 6 黄褐色 7.5YR8/10-11人柱子箇量、粘土粒子箇量。
- 7 黑色 7.5YR8/10-11人柱子箇量、ローム小ブロック箇量、粘土粒子少量。
- 8 黄色 7.5YR8/10-11人柱子箇量、粘土粒子中量、しまりあり。
- 9 黑褐色 7.5YR8/10-11人柱子箇量、しまりあり。
- 10 黒褐色 7.5YR8/10-11人柱子箇量、ローム小ブロック箇量、粘土小ブロック箇量、炭化小ブロック箇量。



第18図 奈良・平安時代の堅穴住跡、中世の道・溝



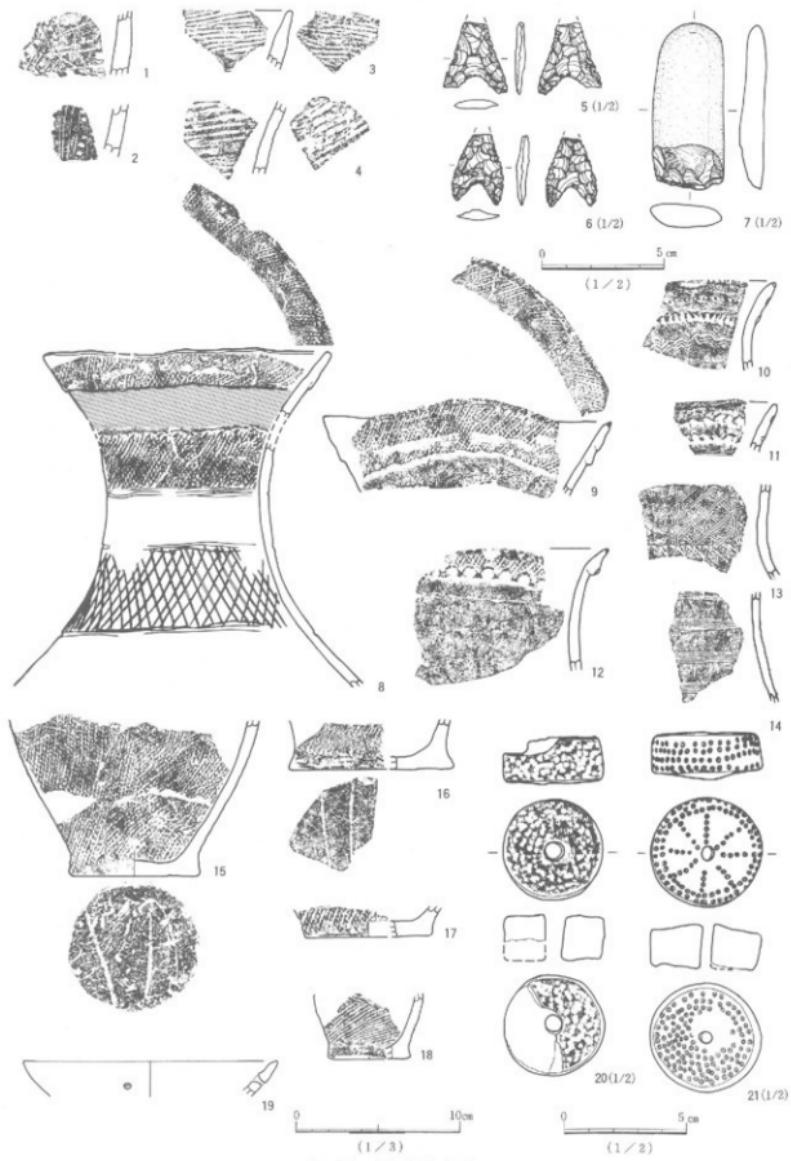
第19図 土坑

表1 田宮梶の宮遺跡住居跡一覧表

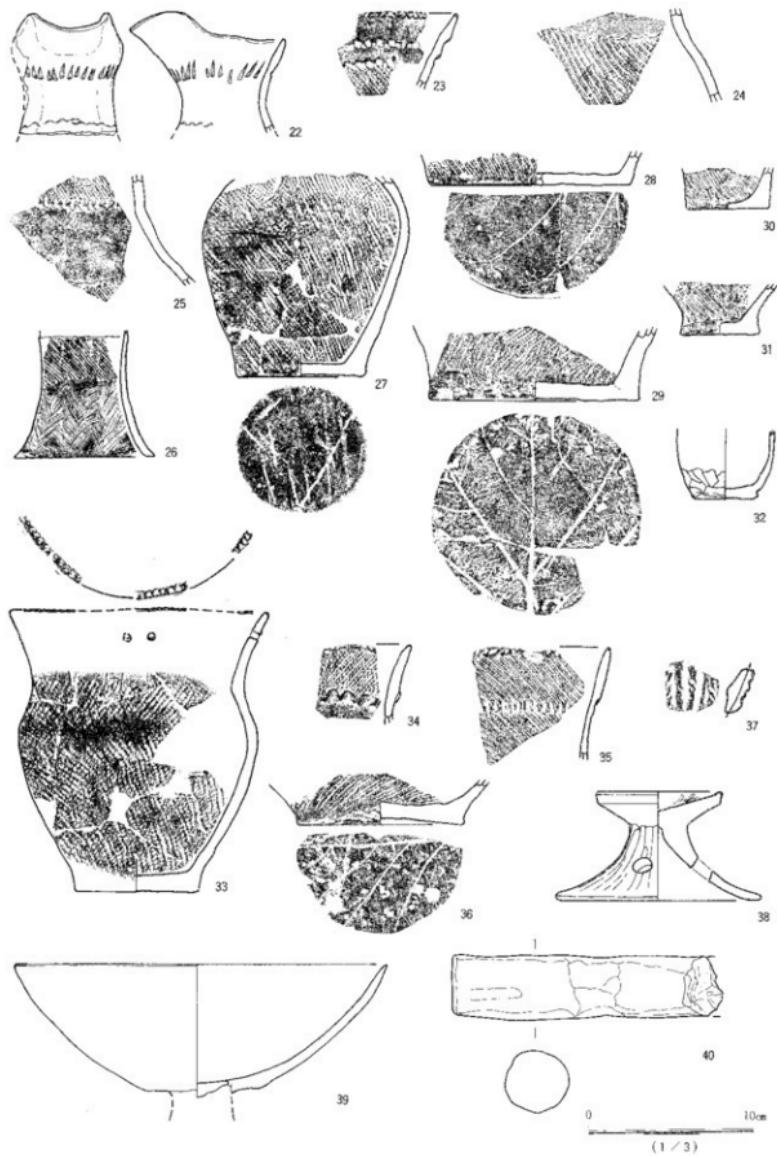
遺構名	位置(グリッド)	重複遺構	形態	規模(長辺×短軸×深さ)m	主軸方向	主柱穴	覆土	備考
S I 0 1	M1/N1	SK02	方形?	3.72×3.22×0.18	N-34°-E	なし	自然	竪坑部に土師器発見
S I 0 2	M1・2	なし	不明	… × … × 0.05	N-59°-E	なし	自然	
S I 0 3	L1	なし	不明	… × … × 0.46	N-25°-E	なし	自然	
S I 0 4	L2/M2	SI12	方形?	3.05×2.54×0.30	N-22°-E	なし	自然	SI12より新しい
S I 0 5	H1・2/I1・2	SI06	長方形	6.25×5.40×0.30	N-40°-W	4	自然	SI06より古い
S I 0 6	H3・4/I3	SI05	不明	4.91 × … × 0.11	N-44°-W	なし	自然	SI05より新しい
S I 0 7	C2-4/D2-4	なし	長方形	… × 6.35 × 0.28	N-39°-W	4	自然	
S I 0 8	K3・4	なし	方形	2.51×2.34×0.42	N-71°-W	なし	自然	
S I 0 9	C4/E4	なし	長方形	… × 2.82 × 0.19	N-80°-E	なし	自然	
S I 1 0	F3・4/G3・4	方周02 SK21・22	長方形	… × 5.17 × 0.35	N-29°-W	4	自然	方周02より古い
S I 1 1	J1・2/K1・2	方周02 SK15	方形?	3.60 × … × 0.34	N-66°-W	4	自然	方周02より新しい
S I 1 2	L2/M2	SI04	長方形	… × 2.40 × 0.44	N-14°-E	なし	自然	SI04より新しい
S I 1 3	B1/C1	なし	不明	… × … × 0.20	N-30°-W	なし	自然	

表2 田宮城の宮道跡土坑一覧表

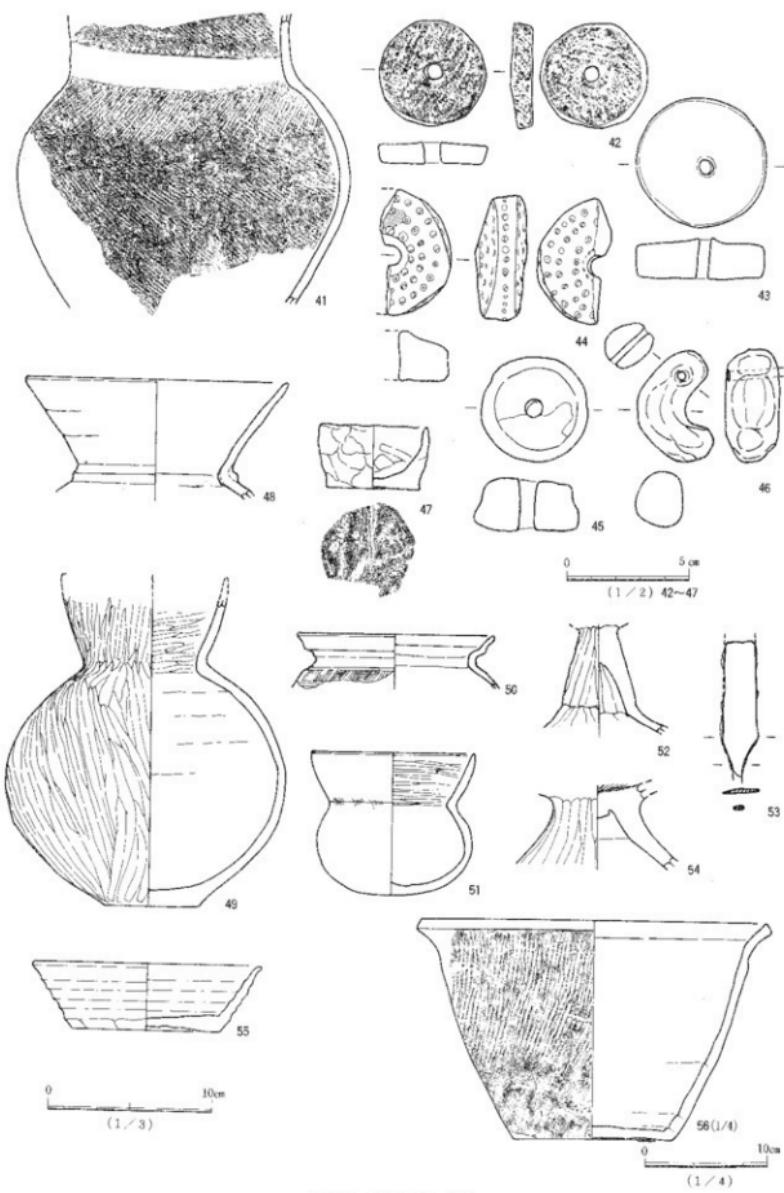
遺構名	位置(グリッド)	重複遺構	形態	復元(長軸×短軸×深さ)m	長軸方向	覆土	備考
SK01	P1	なし	椭円形?	… × 1.04 × 0.45	不明	自然	
SK02	M1	方周01	長方形	1.55 × 1.13 × 1.02	N-50° -E	自然	
SK03	M3	SK04	長方形	1.53 × 1.08 × 0.49	N-39° -E	人為	
SK04	M2・3	SK03	方形	1.20 × 1.07 × 0.44	N-44° -E	人為	
SK05	O1	なし	椭円形	… × 1.24 × 1.68	N-69° -E	自然	陥し穴
SK06							欠番
SK07	N1	なし	椭円形	2.38 × 1.97 × 1.80	N-68° -E	自然	陥し穴
SK08	M3	SK03・04	長方形?	… × 0.69 × 0.10	N-7° -E	人為	
SK09	M2	なし	椭円形	1.25 × 0.82 × 0.27	N-47° -W	人為	
SK10	M1・2/N1・2	なし	方形	1.02 × 0.98 × 0.18	N-65° -E	人為	
SK11	D1	SK12	長方形	… × 1.03 × 0.85	N-62° -E	人為	表土からの掘り込み
SK12	D1	SK11	不明	… × … × 0.61	不明	人為	表土からの掘り込み
SK13	A3/B3	SD02	長方形	4.15 × 1.46 × 0.63	N-9° -E	人為	表土からの掘り込み
SK14	J3/K3	なし	椭円形	4.80 × 4.55 × 1.42	N-80° -E	自然	陥し穴
SK15	K3	SI11	椭円形	0.88 × 0.68 × 0.53	N-37° -E	不明	
SK16	M2・3	SI12	長方形	1.38 × 0.95 × 0.43	N-33° -W	不明	
SK17	M3	SI04・12	不整円形	1.36 × 1.05 × 0.28	N-43° -E	不明	
SK18	J2	SK19	不整円形	1.21 × 1.31 × 0.70	N-3° -W	不明	
SK19	J2	SK18	椭円形	2.03 × 1.32 × 1.53	N-76° -E	自然	陥し穴
SK20	M1・2	SI01	椭円形	2.70 × 2.32 × 2.31	N-61° -E	自然	陥し穴
SK21	G3	SI10	不整円形	1.24 × … × 0.76	不明	不明	
SK22	F4	SI10	長方形	1.30 × 1.04 × 0.47	N-22° -W	不明	陥し穴
SK23	L2	方周02	椭円形	1.02 × 0.74 × 0.60	N-62° -E	不明	陥し穴
SK24	K3	方周02	椭円形	2.32 × 0.93 × 1.28	N-63° -E	自然	陥し穴、石鏡
SK25	K2・3/L3	方周02	椭円形	2.27 × 1.04 × 1.20	N-50° -E	自然	陥し穴
SK26	L2	方周02	椭円形	1.88 × 1.12 × 0.98	N-42° -E	自然	陥し穴
SK27	L3	方周02	不明	… × … × 0.25	不明	不明	
SK28	L3	SK27	不整椭円	… × 1.23 × 0.40	N-19° -E	人為	



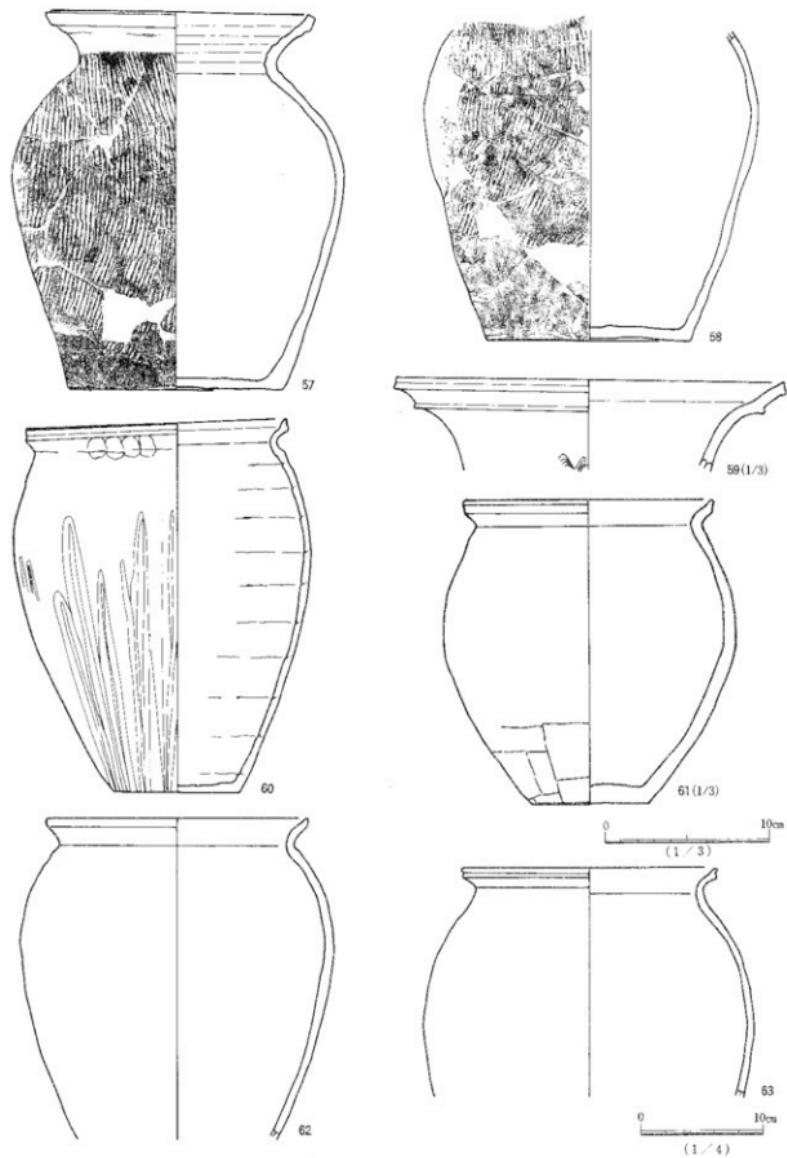
第20図 出土遺物 (1)



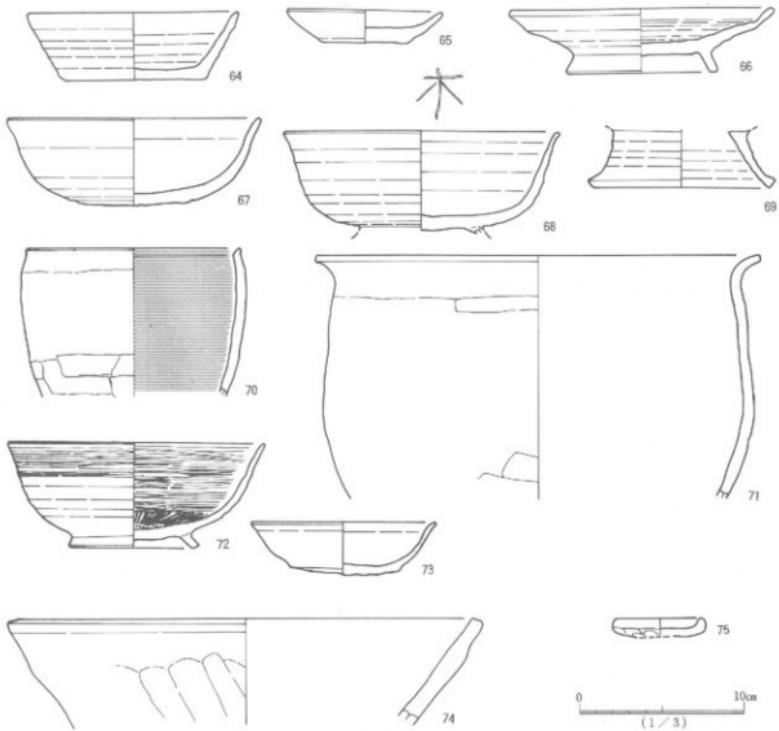
第21図 出土遺物 (2)



第22図 出土遺物（3）



第23図 出土遺物 (4)



第24図 出土遺物（5）

表3 田宮梶の宮遺跡遺物観察表（1）

団體番号	出土遺物	出土位置	種類	形	残存率	動土（鉄・土・石製品は大きさと重量）	色調	器形・技法の特徴。その他	地質
1	S 105	覆土	調文土器	深鉢	3	長石・雲母微粒子	にぶい緑	沈模文系土器	普通
2	S 105	覆土	調文土器	深鉢	3	長石・雲母微粒子	にぶい緑	沈模文系土器	普通
3	S 105	覆土	調文土器	深鉢	3	長石・石英微粒子	にぶい緑	角面文系土器	普通
4	S 105	覆土	調文土器	深鉢	3	長石・石英微粒子	にぶい緑	角面文系土器	普通
5	S 106	覆土	石器	石器	100	長さ2.8cm、幅1.8cm、厚さ0.6cm、2.3g	チャート		
6	SK 24	覆土	石器	石器	100	長さ0.5cm、幅1.7cm、厚さ0.4cm、2.1g	チャート		
7	方面03	覆土	石器	河原磨盤石斧	100	長さ6.7cm、幅2.9cm、厚さ1.0cm、32.5g	頁岩		
8	S 105	底面	共生土器	蓮	30	長石・石英微粒・雲母微粒	にぶい緑		普通
9	S 105	覆土	共生土器	蓮	10	長石・石英微粒	にぶい緑		普通
10	S 105	覆土	共生土器	蓮	5	長石・石英堆少量、雲母微粒	黒		普通
11	S 105	覆土	共生土器	蓮	5	長石・石英微粒	にぶい緑		良好
12	S 105	覆土	共生土器	蓮	10	長石・石英堆多量	褐色		普通

表4 田宮桶の宮遺跡遺物観察表（2）

回収番号	出土遺構	出土位置	種類	器種	残存率	第十（鉄製品は大きさと重量）	色調	器形・技法の特徴、その他	焼成
13	S005	覆土	赤牛十器	壺	5	長石微粒多量	黒褐		良好
14	S005	覆土	赤牛土器	壺	5	青母微粒子多量	に赤い程		普通
15	S005	覆土	赤牛土器	壺	20	石英粒多量、赤母微粒少量	褐色	内面コグ付壺	普通
16	S005	覆土	赤牛土器	壺	5	長石微粒中量	程		やや不良
17	S005	覆土	赤牛土器	壺	5	青母微粒子多量	に赤い程		普通
18	S005	覆土	赤牛土器	ミニチュア十器	5	長石微粒少量	に赤い程		普通
19	S005	覆土	赤牛土器	高环	10	長石・石英微粒	に赤い程		普通
20	S005	赤面	土製品	筋縫車	100	径4.0cm、厚1.7cm、孔径7.0mm	に赤い程		普通
21	S005	覆土	土製品	筋縫車	80	径4.3cm、厚1.6cm、孔径5.5mm	程		普通
22	S007	覆土	赤牛土器	壺	30	石英微粒、青母微粒子	に赤い程	LH骨柱孔山状、腹部上方からの棒状工具	普通
23	S007	覆土	赤牛土器	壺	5	石英微粒多量、青母微粒子少量	に赤い程		普通
24	S007	覆土	赤牛土器	收	5	長心・石英微粒多量	に赤い程		普通
25	S007	覆土	赤牛土器	壺	5	長石微粒多量	褐灰		良好
26	S007	覆土	赤牛十器	壺	15	長石・石英微粒子	に赤い程	縄接沈窓による連續山形文	良好
27	S007	覆土	赤牛土器	壺	70	石英微粒～微粒多量	に赤い程		普通
28	S007	覆土	赤牛土器	壺	5	石英微粒～微粒多量	に赤い程		普通
29	S007	覆土	赤牛土器	壺	10	長石・石英微粒多量	程		やや不良
30	S007	覆土	赤牛十器	ミニチュア土器	5	長石微粒多量	に赤い程		普通
31	S007	覆土	赤牛土器	ミニチュア十器	5	石英微粒中量	程		良好
32	S007	覆土	赤牛土器	ミニチュア土器	60	石英微粒多量	に赤い程		普通
33	S110	覆土	赤牛土器	壺	50	石英砂礫	灰褐色		普通
34	S106	覆土	赤牛土器	壺	5	長石砂礫、青母微粒子少量	黒褐		良好
35	S106	覆土	赤牛土器	壺	5	長石砂礫～微粒多量	黒褐		良好
36	S106	覆土	赤牛土器	壺	10	長石・石英微粒多量	に赤い程		普通
37	方周02	覆土	赤牛土器	收	1	長心・青母微粒子	に赤い程		やや良
38	S006	覆土	土製器	器台	60	石英微粒～微粒、青母微粒子	に赤い程		普通
39	S113	覆土	土製器	高环	30	長石・石英微粒、同微粒子	明褐		やや甘い
40	方周03	覆土	土製品	器台	70?	石英微粒多量	程		普通
41	方周02	覆土	赤牛十器	壺	30	石英・長石移粒多量	に赤い程		普通
42	方周02	覆土	土製品	筋縫車	100	径4.2cm、厚0.75cm、孔径6.0mm	程		普通
43	方周02	覆土	土製品	筋縫車	100	径5.1cm、厚1.4cm、孔径5.0mm、57.3g			普通
44	方周02	覆土	土製品	筋縫車	50	径5.0cm、厚2.1cm、孔径7.0mm、40.7g	に赤い程		やや良
45	方周02	覆土	土製品	筋縫車	100	径4.2cm、厚2.1cm、孔径7.0mm、40.7g	に赤い程		普通

表5 田宮桶の宮遺跡遺物観察表（3）

回収番号	出土遺物	出土位置	種類	形	残存率	測定（鉢・土・石製品は大きさと重量）	色	調	器形・技法の特徴、その他の	備考
46	方周01	埴土	土師器	勾玉	100	長54.5cm、幅2.2cm、孔径1.0cm、24.8g	に赤い	程		普通
47	方周02	埴土	土師器	ミニチュア 土器	70	石英砂礫、青母焼粒子	灰褐色			普通
48	方周02	覆土4号	土師器	鉢	10	石英砂礫多量	棕			やや不良
49	方周02	埴土	土師器	壺	80	石英砂礫多量	に赤い	程		普通
50	方周02	埴土	土師器	壺	10	石英砂礫多量、青母焼粒子少量	に赤い	程		良好
51	方周02	埴土	土師器	壺	95	石英砂礫中～多量	棕			普通
52	方周02	覆土	土師器	高杯	60	石英砂礫多量・鉄石印物少量	赤褐色			普通
53	方周02	覆土	鉢製品	鉢	70	長さ8.2cm、幅2.4cm、厚さ0.2cm、14.0g				
54	方周02	埴土	土師器	高杯	30	石英・長石砂礫、青母焼粒子	灰褐色	剥離外折へラ剥き		良好
55	方周02	埴土	須恵器	壺	60	石英砂、青母焼	オリーブ灰			普通
56	方周02	埴土	須恵器	壺	50	石英・長石砂礫、青母焼粒子多量	オリーブ灰			普通
57	方周02	覆土	須恵器	壺	90	石英・長石砂粒少々、青母焼粒子多量	明オリーブ灰			やや不良
58	方周02	埴土	須恵器	壺	40	石英・長石砂礫少々、青母焼粒子多量	褐色			普通
59	方周02	埴土	須恵器	壺	10	黄白色焼粒子少々	褐色			良好
60	方周02	覆土	土師器	壺	70	石英・長石移粒、青母焼粒子	に赤い	程		普通
61	S004	覆土	土師器	壺	80	石英礫多量、青母粒一微粒下	に赤い	程	内面中央下半ヨコ付着	普通
62	S004	覆土	土師器	壺	50	石英砂礫、青母粒子	に赤い	程	カマツ右側縦筋材として 軸用	普通
63	S004	覆土	土師器	壺	40	石英砂礫多量、青母焼粒子中量	棕		外側肩部以下深付着、カ マツ左側縦筋材	普通
64	S004	覆土	須恵器	壺	70	長石砂少々、青母焼粒子多量	灰褐色		萬葉詠歌へラ切り離し、 後一方向へラ剥き	普通
65	S008	埴土	土師器	小皿	60	石英礫多量、青母焼粒子少々	程			普通
66	S008	埴土	須恵器	高台付皿	80	石英粒、青、青母焼粒子多量	黑	二水焼成		普通
67	S009	埴土	土師器	高台付碗	55	青母焼粒子多量	に赤い	程	侈部内面横位、底面一方 向に細かヘラ	普通
68	S009	埴土	土師器	高台付碗	60	青母焼粒子多量、石英砂礫少々	に赤い	程	侈部内面ヘラ巻き、「木」 の剥き	普通
69	S009	埴土	土師器	高台付碗	20	青母焼粒子多量	程			普通
70	S009	埴土	土師器	鉢	20	青母・石英焼粒子	に赤い	程	内面黒色低度、侈位の頬 からヘラ剥き	良好
71	S009	覆土	土師器	上仰壺	15	青母焼粒子多量、石英砂礫少々	棕			普通
72	S011	埴土	土師器	高台付碗	50	青母焼粒子多量	に赤い	程	内面及び外面上半部磨き	良好
73	S012	埴土	土師器	小皿	95	青母焼粒子多量	に赤い	程	底部ヘラ切り離し無痕	普通
74	S03	埴土	常滑	鉢	10	長石礫、鉄分融解粒	褐		内面凹凸ナメ、外底面沿 裏面	良好
75	方周02	埴土	土師土器	小皿	50	貝石・石英焼粒子	に赤い	程		良好

図版1 調査区全景



調査区全景（北方向より）



調査区全景

図版2
2号方形周溝墓



2号方形周溝墓全景



北側周溝完掘状況（北東方向より）



南側周溝完掘状況（北東より）



南側周溝完掘状況（南方向より）

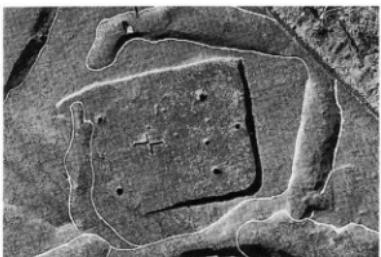


南側周溝完掘状況（南西方向より）

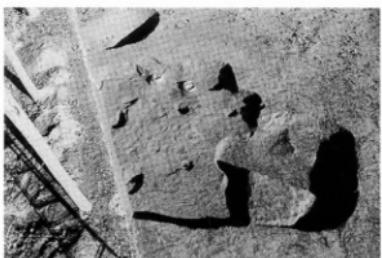
図版 3 1号・3号方形周溝墓



1号方形周溝墓全景（南東方向より）



3号方形周溝墓全景



1号住居跡完掘状況（南西方向より）

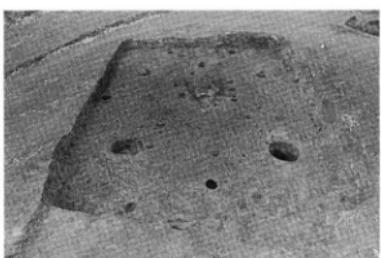


3号・14号住居跡完掘状況（南西方向より）

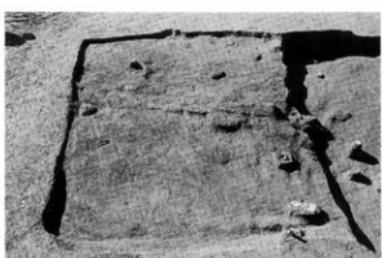
1号・3号・5号～7号・14号住居跡



5号住居跡遺物出土状況（南西方向より）



5号住居跡完掘状況（南東より）

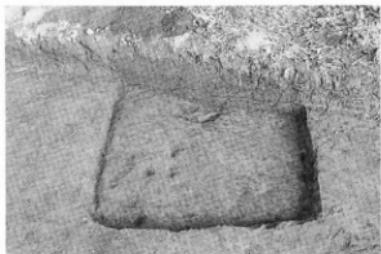


6号住居跡遺物出土状況（北東方向より）



7号住居跡完掘状況（南東方向より）

図版 4
4号・9号～13号住居跡



9号住居跡完掘状況（西方向より）

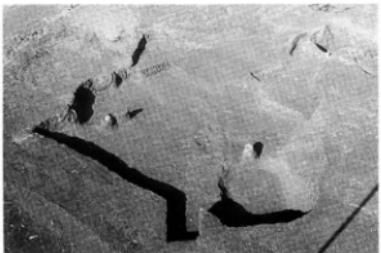


10号住居跡完掘状況（南東方向より）

3号・4号・7号
・19号土坑



11号住居跡完掘状況（北西方向より）



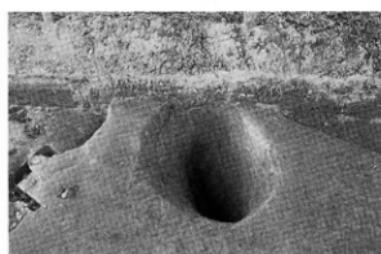
4号・12号住居跡遺物出土状況（南東方向より）



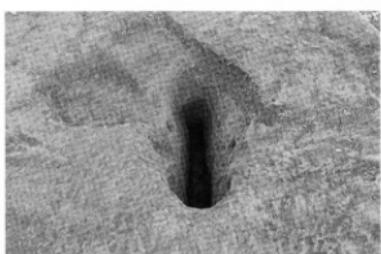
13号住居跡遺物出土状況（北東より）



3号・4号土坑完掘状況（南西より）

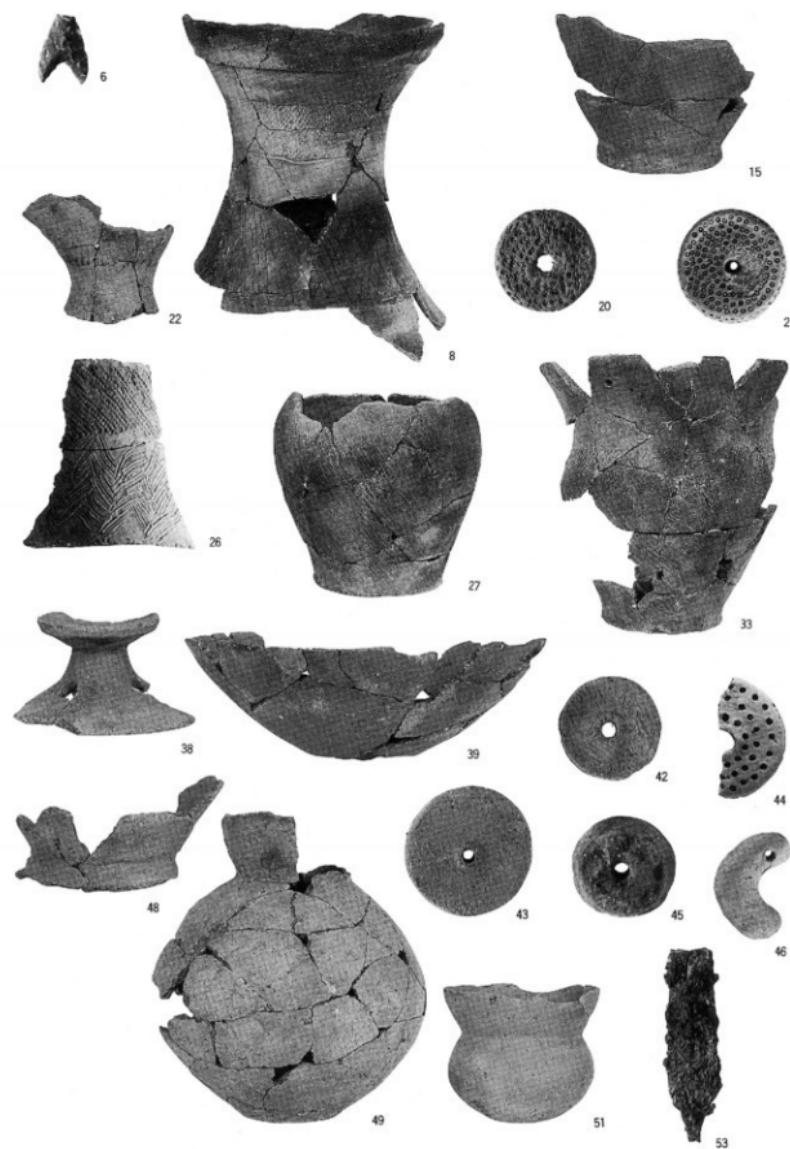


7号土坑完掘状況（東より）



19号土坑完掘状況（西方向より）

図版 5 出土遺物



図版
6 出土遺物



抄 錄

ふりがな	たみやかじのみやいせき							
書名	田宮梶の宮遺跡							
編著者名	高野治之 土生剛治							
編集機関	山武考古学研究所 / 〒236-0045 千葉県成田市並木町221番地 TEL 0176-24-0536							
発行機関	新治村教育委員会 / 〒300-4192 茨城県新治村藤沢975番地 TEL 0298-62-3511							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
田宮梶の宮遺跡	茨城県新治郡 新治村大字田 宮字藤澤921番地	08465	県 2067 村 21	36° 08' 09"	140° 08' 51"	2000.10.29 ~ 2000.12.13	1,520m ²	道路新設工事
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡		主な遺物		特記事項	
田宮梶の宮遺跡	無落差 墳墓	弥生時代 古墳時代前期 奈良・平安時代 中世	陥し穴 弥生・整穴住居 古墳前期・整穴住居 古代・整穴住居 方形周溝墓	9基 3軒 2軒 8軒 3基	石器（石器）、弥生式土器 (壺・土製彷彿埴輪)、土師器 (器台・高杯・甕・鉢・鉢 壺・壺・高台付壺・高台付 壺)須恵器(环・甕)、土 師質土器(小皿)、中世陶 器(高滑)			人骨の方形周溝 墓を確認する。 弥生時代後期南 半期の上器で赤 彩されたものが 出土する。

出土遺物等の取り扱いについて

項目	内 容
水洗い	・すべてを行なった。
注記	・インクジェットプリンターを使用した。 ・遺跡略号(TKJ)・出土遺物(S I: 整穴住居、S K: 土塙、S D: 潟跡)・出土層位・遺物番号等 を併記した。 ・また、十脚鏡片や石礫等については、同様の内容を収納したビニール袋に明記した。
復元	・複合は可能な限り行った。必要に応じてエボキン樹脂を充填し、強度的に必要な最小限の復元を行なった。
実測	・遺物実測図は、報告書掲載分のみ作成した。
台帳	・遺物台帳・圓筒台帳・写真台帳があり、それぞれの資料の検索が可能であるよう作成した。 ・合計1冊(綴り)
保管方法	・出土遺物は、報告書使用と未使用に分け、コンテナあるいはダンボール箱に収納した。 また、各箱には収容内容を明記した。 なお、遺物については、注記番号・台帳番号・報告書掲載番号の3種類が存在するが、基本的に報告書 掲載番号を優先して記載・収納してある。

田宮梶の宮遺跡

一発掘調査報告書一

印刷 平成13年3月10日

発行 平成13年3月15日

編集 山武考古学研究所

発行 新治村教育委員会

印刷 (株)文化総合企画

TEL 0476-93-0593